

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

コロケーションから見る導入的thisの談話的特徴：
There was this NPを中心に

メタデータ	言語: ja 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2021-03-26 キーワード (Ja): 導入的 this, コロケーション, 談話構造, 語り, Spoken BNC2014 キーワード (En): 作成者: 山崎, のぞみ メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007949

コロケーションから見る導入的 this の談話的特徴

— there was this NP を中心に —

山 崎 のぞみ

要 旨

会話の語りで見られる初出の要素を導入する this は、それが後続談話の中心となる重要な要素であることを示し、聞き手の注意を引きつける役割を持つ。本研究は、導入的 this の談話的特徴を、生起環境や談話構造との関連で説明することを試みる。調査では Spoken BNC2014 を使い、新情報導入構造である there was this+NP (名詞句) の左側に起こるコロケーションを局所的に分析した。

共起語には、話者の記憶を確認したりターン交替を一時停止したりする語句、時や場面の設定を行う語句といった新情報導入の準備となる前置きの表現が見られた。また、「外向き・上向き」の視点の動きや「移動・終了」イメージの語句、語りのハイライトや重要な展開を示す接続詞やつなぎの語句も特徴的だった。さらに会話のリズム性や双方向性を表す言語特徴も共起しており、聞き手との相互作用で語りの進行や展開がなされていた。

キーワード：導入的 this、コロケーション、談話構造、語り、Spoken BNC2014

1. はじめに

英語の話し言葉では、談話に初めて導入される新情報を指すのに指示代名詞 this が使われることがある。以下がその 1 例である。⁽¹⁾

- (1) S0424: but I used to I've done some work on very early cinema when I was a film
archivist and there was **this** lady I can't remember her name now (.) but she
ha- she's a professor and she studies carnivals but also ... (SEPP)

このような this を伴う名詞句は、指示対象を特定することができない不定の名詞句であり、「不定冠詞 a/an + 名詞句」(ある～) で置き換えることができる。初出の要素の導入に用いられる近接指示詞 this は、それが後続談話の中心となる重要な要素であることを示す役割を持つ。会話に「まるでその場に存在するかのような生き生きとした臨場感」(Biber et al. 1999: 274) を醸し出し、「聞き手を引き込む」(Lakoff 1974: 347) 効果があるとも言われている。

新情報の不定名詞を導入する *this* は、談話の特定の場所に生じやすい。日常会話の中でストーリーやエピソードを物語る「会話の語り (conversational narrative)」(Rühlemann 2013) と呼ばれる部分で用いられることが多く、Rühlemann and O'Donnell (2015) は、特に語りの最初の発話に現れる傾向があることを示している。しかし、Smith et al. (2005: 1890) が、新情報の導入には導入の準備 (pre-introductions) と正式な導入 (formal introductions) があると述べているように、語りにおいて重要な人や物事の導入は唐突になされるわけではなく、その前に導入への備えとなるような特徴的な生起環境や談話構造パターンがあると考えられる。

本稿では特に、*this* を使った新情報導入フレーズの *there was this*+ 名詞句 (NP) に焦点を当て、話し言葉コーパスを用いて、フレーズの左側に起こるコロケーションを局所的に分析する。談話のトピックやテーマとなるような要素を導入する *this* が、どのような発話の連鎖や談話構造パターンの中で使われているのかを調査することによって、導入的 *this* が持つ談話的特徴を明らかにしたい。

2. 研究の背景

本稿では、不定冠詞と置き換え可能な、新情報の不定名詞を導入する *this* を、Halliday and Hasan (1976)、Biber et al. (1999)、Rühlemann (2007)、Rühlemann and O'Donnell (2015) にならって「導入的 *this* (introductory *this*)」と呼ぶ。導入的 *this* はインフォーマルな話し言葉で使われ、書き言葉では一般的でない (Lakoff 1974, Wald 1983)。Prince (1981: 232) も 'virtually ignored in the literature but very common in speech, though stigmatized as being nonstandard' と述べており、書き言葉に基づいた文法では非標準的用法として十分な記述がなされていない。しかし、語用論や談話分析、さらに会話コーパス編纂の進展に伴って進んだ話し言葉文法の記述の中で、その使用の実態がいくらか論じられてきた。以下ではそれらの先行研究を概観する。

2.1 指示表現としての導入的 *this*

Halliday and Hasan (1976: 61) による照応表現の分類では、導入的 *this* は 'non-phoric' のカテゴリーに分類されている。つまり *this* NP の指示対象は、テキスト内に存在する内部照応 (endophoric) でもテキスト外の状況に存在する外部照応 (exophoric) でもなく、話者の頭の中にのみ存在するとされる。a/an や some などの不定語句と意味を変えずに置き換えることができるが、定冠詞 *the* とは置き換え不可能なので、その指示対象は不定である。

(2) S0358: we had to go we I er years ago I had **this** trip to Frankfurt to my boss he
was a bit of a job and er and we were on the plane and ... (SE68)

(3) S0618: and I'd expressed that when I had a trip to England actually it was before
Christmas it was before (.) ... (S7GW)

(2) this trip と (3) a trip は両方とも、「不定の特定指示 (indefinite specific reference)」である (Prince 1981, Wald 1983)。this NP は通常、限定性を持つ特定指示であるが、(2) の this trip は限定性を持たず具体的な指示対象を同定できないため、(3) の a trip 同様、不定指示である。また両方とも、trip というカテゴリーの中の特定のメンバーを指示対象として具体的に含意しており、特定性がある。

一方、(2) this trip が (3) a trip と異なるのは、(2) の this NP が指示的であるという点である。聞き手が指示対象について有している認知ステイタスに基づいて指示表現選択を説明している 'Givenness Hierarchy' (Gundel, Hedberg and Zacharski 1993) では、不定用法の this NP は、a/an NP の 'type identifiable' より一段階高い 'referential' の認知ステイタスを持つとされている。つまり、単に名詞のカテゴリーを同定して辞書的な意味が分かればよい a/an NP と違って this NP は、特定のメンバーが存在し、それについて何かは今から語られるということを想定させる。言い換えれば this は、「話者はある特定の対象を指示する意図がある」ことを聞き手に知らせるもので、それについて語られる予定のものを談話に導入する。

上述のことは、this で導入された指示対象は談話に重要な要素であり、後続談話で再度、言及される可能性が高いということを示唆する (Prince 1981, Wald 1983, Givón 1995, Smith et al. 2005, Rühlemann and O'Donnell 2015)。代名詞をフォーカスの高さの違いによって示した Strauss (2002: 135) の枠組では、this は、注意を引き出す意味の合図 (meaning signal) の程度が高い 'high focus' であり、その指示内容は談話上、重要なものと位置づけられる。this のこのような一般的性質は上記のような導入的 this の談話的特徴と一致する。つまり this は、語りのテーマとしてその後の談話で言及されやすい指示対象に聞き手の注意・関心を留めておくための合図となる。

さらに、初出の要素の導入に this が使われる背景には、近接指示詞 this が感情的ダイクシスの典型である点も関係する。ダイクシスには、場所・時間のダイクシスや談話のダイクシスのほかに、'emotional deixis' (Lakoff 1974) や 'empathetic deixis' (Rühlemann 2007) と呼ばれるものがあり、指示対象に関する話者の何らかの感情を表し、聞き手にもその感情の共有を期待する含意を持つ。Halliday and Hasan (1976) も、近接ダイクシスの this や these を使う背後には、興味や関心の共有という要因があると言っている。これは、指示物を話し手のなわ

ばりの中に引き込み、心理的に近いものとして扱う「近接性操作 (proximity manipulation)」(Rühlemann 2019: 57) の一例でもある。ダイクシスの基準となる中心点から遠いものの指示に、話者の世界を指示する近接的ダイクシス *this* を用いることで、中心点の変換・移動が行われ、話者の指示対象への関わりの高さや直接性が示される。この結果、「近さ」や「親近感」が表され、指示対象がそこに存在するかのような生き生きとした臨場感をもたらす (Halliday and Hasan 1976, Wald 1983, Leech and Svartvik 1994, Carter, Rebecca and McCarthy 2000, 安藤 2005)。

2.2 談話構造と導入的 *this*

導入的 *this* は、語りの構造など談話構造との関連でも特徴的なふるまいが指摘されている。Rühlemann (2007: 190) によると、Labov (1972) の「語りの構造」モデルでは、導入的 *this* の出現は、語られる話の状況・場面設定を行う「オリエンテーション」と呼ばれる箇所にはほぼ限定されるという。Labov (1972) のモデルは、社会言語学的なインタビューで語られた語りに基づいているが、日常会話の語り (conversational narrative) の構造を明らかにした Rühlemann (2013: 7) によると、通常の会話モードから語りへというスピーチジャンルの移行には、語彙の相関的特徴を伴いやすいという。導入的 *this* もその一つであり、Rühlemann and O'Donnell (2015) は、*this* は語りの冒頭の発話の位置に起こりやすいこと、語りの最後の発話では避けられやすいことを明らかにした。このように導入的 *this* は、語がテキストの特定の位置で起こる構造的パターン ('textual colligation', Hoey 2005) を示す一例としても取り上げられている。

導入的 *this* の使用が談話構造と関わっていることは、*this* NP の指示対象が既に前の談話で言及されている例からも見ることができる。以下は、Prince (1981) で取り上げられている会話の語りの例である。

- (4) "I've been bit once already by a German shepherd. And it was something. It was really scary. It was an outside meter the woman had. I read the gas meter and was walking back out and heard a yell. I turned around and *this German shepherd* was coming at me ..." (Gas meter reader; Terkel, 1974, p. 366) (Prince 1981: 234)

ここでは、冒頭で a German shepherd と指示されたものが、少し後で *this German shepherd* という形で再度、現れており、初出の要素を導入する不定の *this* NP の例外として取り上げられている。しかし Prince (1981: 235) は、*this German shepherd* は厳密には初出ではないが、前の a German shepherd を指す前方照応ではなく、物語の始まりがここからであることを示

すという意味で初出であると述べている。つまり、a German shepherd を含む最初の3文はこれから話す話の要旨を述べた部分であり、this German shepherd は実際の物語部分で初めて指示対象を導入していると言える。Wald (1983) も同様に、旧情報の要素に再度、言及するために使われる不定の this NP は、新しい談話単位 (discourse unit) を標示していると述べており、導入的 this と談話構造の区切りが関連していることを示している。

上述の議論は、導入的 this と直前の発話との談話関係も示唆する。例えば (5) では、the noise という定指示表現で導入されたものが、後続発話では不定指示の this throbbing noise という表現で指示されている。

(5) S0358: >>talking of noise did you hear the noise last night? there was **this** throbbing noise when you got up in the night

S0110: well sometimes it's the diesel trains coming through don't they? (SQX2)

前の晩に聞こえた音を指すのに、最初はお互い既知の旧情報として the noise と定冠詞を用いたが、相手が音に気付いていなかった、あるいは、覚えていない可能性もあり、次の発話では不定の this NP を使っている。この this NP は前とは異なる談話単位の始まりを示しており、言い換えれば、did you hear the noise last night? という部分ではまだ語りに入っておらず、新たなトピック導入の前置きの発話と見なせる。次節では、this が指示対象をどのような環境で導入しているのか、会話コーパスを用いて実証的に分析・議論する。

3. データと調査方法

本研究は、The Spoken British National Corpus 2014 (Spoken BNC2014) を用いてデータを収集した。Spoken BNC は、2012～2016年に収集されたイギリス英語母語話者による1,150万語の会話コーパスである (Love et al. 2017, Love, Hawtin and Hardie 2017, Brezina, Love and Aijmer 2018)。会話は全てインフォーマルな日常会話である。分析にはランカスター大学のオンラインコーパス分析システムである CQPweb (Brezina, Love and Aijmer 2018) を用いた。

本研究では、導入的 this が現れる談話的な生起環境を調べるために、コロケーション分析を行う。コロケーションとは語の慣習的な結合関係のことであり、語と語の共起関係を指すことが多いが、語の統語パターンや意味パターンだけではなく、談話パターンの研究にも利用できる。データを初出の情報を導入する this の用法に限定するため、ここでは there was this というフレーズをコロケーション分析の中心語 (フレーズ) にする。there was ... は、Smith et al. (2005: 1886) が 'canonical presentational structure' と呼ぶように、典型的な新情報の

導入構造であり、この構造と this の組み合わせによって、導入的 this の出現率が高まる。また、過去の話をする時、現在形 (there's this) が使われる頻度も高いが、外部照応や他の用法の this を排除するために、ここでは過去形の there was this を対象とする。there was this NP が習慣的に共起する語の分析によって、導入的 this の意味的・文法的・談話的な生起環境を明らかにする。

具体的方法として、コーパス内に現れる there was this (257例) の左側に来る語を1語目から5語目の共起範囲 (L1-L5) で調べ、統計値によって共起強度の高い順に並べた。共起強度とは、語と語の共起関係の強さを統計的に出した値であり、共起範囲の取り方や統計指標の種類で結果は異なる。コロケーション検出の統計指標にはいくつかあるが、本研究では、共起度分析でよく使われる相互情報量 (Mutual Information: MI、以下 MI スコア) と T-score (以下 T スコア) を用いる。両者は性格が異なる指標であり、⁽²⁾ 同じデータに適用しても、共起語の統計値や共起強度順位はかなり異なる。しかし本研究がコロケーションを測る目的は、厳密に共起強度を計量して順位を確定することではなく、大まかな共起傾向を把握することなので、あえてタイプの異なる2種類を用いた。また、共起関係の強さを判断する基準値とされる値も諸説あるが、⁽³⁾ ここでは、より包括的な議論を行うため、基準値を低くとして統計値上位20の共起語を扱う。表1に there was this の MI スコアと T スコアの上位20語を示す。

表1 there was this (257) の共起語の MI スコアと T スコア (L1-L5)

No.	共起語	共起頻度	MIスコア	No.	共起語	共起頻度	Tスコア
1	ago	5	3.879	1	and	135	8.952
2	night	5	3.107	2	was	38	3.796
3	remember	7	2.869	3	then	23	3.612
4	went	7	2.168	4	there	23	3.104
5	and	135	2.123	5	were	15	2.975
6	were	15	2.108	6	remember	7	2.284
7	then	23	2.018	7	like	29	2.097
8	--ANONplace	9	1.683	8	ago	5	2.084
9	there	23	1.504	9	--ANONplace	9	2.066
10	was	38	1.38	10	went	7	2.057
11	because	6	1.099	11	night	5	1.976
12	out	7	1.084	12	in	21	1.8
13	up	7	0.919	13	yeah	40	1.699
14	when	7	0.88	14	mm	15	1.478
15	them	6	0.804	15	out	7	1.398
16	in	21	0.72	16	because	6	1.306
17	like	29	0.712	17	up	7	1.246
18	mm	15	0.694	18	when	7	1.208
19	erm	10	0.652	19	erm	10	1.15
20	at	7	0.619	20	them	6	1.046

表1が示す通り、MIスコア、Tスコアとも、順位はそれぞれ異なるが、20の共起語のうち19語が両方の統計値で重複している。異なるのは、MIスコアでは at が20位に入っているがTスコアでは圏外(21位)、また、Tスコアでは yeah が13位に入っているがMIスコアでは圏外(22位)という点である。上位20語における重なりは、there was this が起こりやすい意味特徴や談話特徴を示唆していると考えられる。

4. there was this NP の生起環境

4節では表1の共起語を、語のタイプや意味、談話的特徴によって8タイプに分けて、どのような環境で there was this による新情報導入が行われる傾向があるのかという点について分析・議論する。

4.1 remember

表1に挙がっている2つの一般動詞のうちの1つ remember は、MIスコア、Tスコアともに上位に入っている(MIスコア3位、Tスコア6位)。共起頻度は7であり、図1に7例の共起形コンコーダンスを示す。

図1 共起語 remember のコンコーダンス

1	S29Q 451	mum 's too must your mum 's like S0554: >>I remember I remember	there was this	like I remember this whole thing of you like being gay S0405: yeah
2	S29Q 451	mum 's too must your mum 's like S0554: >>I remember I remember	there was this	like I remember this whole thing of you like being gay S0405: yeah
3	S4HW 836	have to do with everything ? S0689: I ca n't remember S0687: okay S0689: basically	there was this	biology teacher and er in the deep deep deep S0687: >>I remember this
4	S5PW 505	they 'll get plenty S0008: but can you can you remember years ago	there was this	mad English woman who was trying to save all the cats in
5	S7VD 431	of () chivvying people along beneath them S0510: yeah S0509: like I remember on --ANONplace	there was this	one guy and I really tried to make him be a leader
6	S9GP 965	S0326: I do n't know S0327: yeah we do now S0327: I remember erm and	there was this	guide with all the camels getting onto his mobile S0327: and that did
7	STK7 31	each other but like mainly as well --ANONnameF like I remember like	there was this	pivotal thing when --ANONnameF had like I think it was her fourteenth

7例の共起例のうち、6例がI (can't) remember というフレーズ(2例は繰り返し)であり、もう1例は(6)に示すように、can you remember というフレーズで用いられている。

(6) S0008: but can you can you remember years ago **there was this** mad English woman who was trying to save all the cats in Venice?

S0012: that's right yeah there was weren't there (.) yeah (S5PW)

つまり、思い出したことや覚えている・いないことは談話のトピックとなりやすく、これらの表現が新情報導入の際の前置き的表現として使われていることが分かる。このようなフレーズは埋め込みを従える主文という統語構造ではなく、独立的なフレーズとして機能している。類

似の前置きの表現として、MI スコア、T スコアとも34位で共起の強さは低いが、*'er do you know in New Zealand there was this Maori couple and they called their son four ever as in number four'* (S6W8) のような know を使ったフレーズも見られた。

上述のことが示唆することは、there was this というフレーズ自体、その後に来る新情報の名詞句導入の前置きであるが、さらにその前に導入準備となるような表現がくる傾向があるということである。新情報の出現を予告するような発話があると、聞き手も認知的に受け入れやすい。Smith et al. (2005: 1890) が言う、新情報の正式な導入 (formal introductions) に先立つ導入の準備 (pre-introductions) の一つと見ることができる。また語りの構造には、話者がターン交替を一時停止させて聞き手の注意を引き、どのような話に来るかについての情報を与える 'story preface' (Sacks 1992) あるいは 'abstract' (Labov and Waletzky 1967) と言われる談話単位がある。上記のようなフレーズはこのような談話単位の目的とも合致する。調査のスパンを手作業で左側にさらに拡大したところ、*'... but let me finish (.) cos I was saying a few years ago there was this em eh the rival em studio and ...'* (SK39) のように、文字通りターン交替を停止させて関心を引き寄せる表現や、*'... I have to say the way he told me was absolutely appalling [oh really?] there was this this consultant I'd never seen before who ...'* (SYX3) のように、話のポイントを先に示して予告する発話が見られた。

4.2 ago, night

there was this は過去形の表現のため、過去の時を表す語との共起関係が見られる。過去の話を物語る時に、新情報導入に先立って時や場面の設定を行うために使われていると想定される。表1は、上記(6)にも見られるような ago との共起関係の強さを示している (MI スコア1位、T スコア8位)。図2が ago との共起形コンコーダンスである。

図2 共起語 ago のコンコーダンス

1	S5PW 505	they 'll get plenty S0008: but can you can you remember years ago	there was this	mad English woman who was trying to save all the cats in
2	SDMJ 178	of course a lot of interns S0464: yeah S0456: erm (.) there was ages ago	there was this	guy from Austria and I S0464: yeah S0456: I thought I do n't understand
3	SK39 529	but let me finish (.) cos I was saying a few years ago	there was this	em eh the rival em studio and they produced em series as
4	SNG4 1196	there was a guy actually I remember maybe about a year ago	there was this	interview was he coming back or something? S0257: mm S0258: yeah S0255: mm S0257: cos
5	SZQX 17	S0439: I du n no why like about I think three weeks ago	there was this	erm big --ANONplace weekend and like S0450: >>oh yeah? S0439: they like one

図2の通り、ago の共起例5例の全てがL1の位置に現れており、4例が、can you remember, I was saying, I think という前置きの表現と共起している。数は少ないが、ここに見られる共通パターンは「導入の準備 [前置きの表現→過去の時] →新情報の導入」という談話構造である。

さらに2例目と5例目の左のコンテキストを広げてみると、繰り返し起こっている事柄を話した後、その中の一つの具体的エピソードを取り上げて新情報の人や物を導入する時に、...

ago there was this ... が使われているのが見られた。以下が一例である。

- (7) S0456: erm (.) so every time l- in the last (.) few times that I've been I always
would see somebody else
- S0464: mm
- S0456: and it just seems to be a lot of doctors and then of course a lot of interns
- S0464: yeah
- S0456: erm (.) there was ages ago **there was this** guy from Austria and I
- S0464: yeah (SDMJ)

このように、よく起こった過去の一般的な出来事の話から具体的エピソードへの移行という談話の区切りに、過去の時を表す語句がつなぎとして使われている。

また、同じく過去の時を表す night も高い共起強度順位である (MI スコア 2 位、T スコア 11 位)。図 3 のコンコーダンスが示す通り、there was this の節に付加された副詞句を構成するのは 1 例のみ (one night there was this ...) だが、他の night も、同じ話者が there was this の前で話の場面設定や概要を表している発話で使われている。(8) がその例である。

図 3 共起語 night のコンコーダンス

1	SAAF 284	us S0653: I do n't remember it what was it ? S0654: one night	there was this	building which hou- which had houses and trees S0653: >>mm ? S0654: around it
2	SKDA 1244	there S0230: mm S0198: yeah S0230: yeah we booked that Saturday night S0198: mm S0230: and	there was this	--UNCLEARWORD to that for dad 's birthday S0198: oh yeah he said he
3	SKHW 943	--ANONplace and there was this it was a really busy night and	there was this	like tradesman dude who was like a scaffolder they were like --UNCLEARWORD
4	SPIR 305	erm oh Britain 's Horror Homes we were watching last night and	there was this	one infested with dust mites and horrible getting bitten and --ANONnameF was
5	SQX2 198	abatement S0358: >>talking of noise did you hear the noise last night ?	there was this	throbbing noise when you got up in the night S0110: well sometimes it

- (8) S0330: --ANONplace yeah we went to --ANONplace and there was this it was a
really busy night and **there was this** like tradesman dude who was like a
scaffolder ... (SKHW)

時を表す語句の中でも night との共起が特に強い事実は、夜の出来事が語りのトピックとして取り上げられやすく、日常会話における典型的な語りの設定の一方法であることを示唆する。

4.3 went, out, up

表 1 の共起語の中には、移動や方向を表す語 went, out, up が見られる。順位は went (MI スコア 4 位、T スコア 10 位)、out (MI スコア 12 位、T スコア 15 位)、up (MI スコア 13 位、T スコア 17 位) である。図 4 は went との共起形コンコーダンスである。

図4 共起語 went のコンコーダンス

1	S263 665	eggs S0590: mm S0589: >>mm S0616: but erm suddenly I went out one morning and	there was this	pile of feathers S0616: and I think the fox S0590: the local foxes S0616: enjoyed
2	S9X9 441	there as well erm so erm we --ANONnameM and I went and	there was this	crush of women of a certain age S0282: all in candy coloured rainwear
3	SA69 69	S0302: and go and try a pair on S0262: yeah S0302: so I went in	there was this	lovely Indian girl in there (.) and erm (.) I said oh now I
4	SHGE 1115	he ? S0538: >>yeah S0546: >>the NHS helpline S0538: and he went to --ANONplace (.) and	there was this	particular unit and there was no hardly anybody there when he went
5	SKHW 943	S0328: which one ? --ANONplace ? S0330: --ANONplace yeah we went to --ANONplace and	there was this	it was a really busy night and there was this like tradesman
6	SJTB 120	'I sort it out so I like got dressed and went to	there was this	big hotel and I was like I'm gon na go and
7	SV6B 1939	floor in our study oh but when I went in this morning	there was this	black mark S0591: oh what sort of size ? S0590: not not solid but

共起例7例のうちいずれも、went と there was this は同じ話者の発話に現れている。went の主語は6例が I か we、1例が he だが、全てにおいて「～へ行ったら…があった(いた)」という発話の連鎖パターンが見られる。一例を(9)に示す。

- (9) S0538: and he went to --ANONplace (.) and **there was this** particular unit and there was no hardly anybody there when he went it was in and out and it he was back home about half past so (SHGE)

これと関連して、図5のコンコーダンスが示すように、共起語 out も同様に、共起例全て there was this の話者と同じ話者による産出である。

図5 共起語 out のコンコーダンス

1	S263 665	eggs S0590: mm S0589: >>mm S0616: but erm suddenly I went out one morning and	there was this	pile of feathers S0616: and I think the fox S0590: the local foxes S0616: enjoyed
2	SPPF 1756	hot S0162: yes S0073: so all the idiots come out in their cars (.) and	there was this	guy outside the supermarket where I was getting all the erm stuff
3	S7S7 209	reason (.) I think it was because I heard I found out that	there was this	type of music that I'd never heard of that was called
4	S7S2 150	hole I hit something so I dug out some more dirt and	there was this	blanket and I thought S0262: oh no S0300: I'm sure I put your
5	SAQD 790	over S0154: oh that woman at the end though (.) when you walked out	there was this	woman and she had like a zip over her eye and she
6	SBFN 61	solid in the middle of --ANONplace I looked out the window and	there was this	statue of a bloke there and on it Holloway S0308: oh my goodness
7	SC3M 547	Wednesday I erm I was just coming out of the gym and	there was this	man and this woman having a domestic S0440: yeah S0439: in the middle of

共起例では、3例目(I found out ...)を除くと、went out, come out, dug out, walked out, looked out, coming out of の表現で使われており、これらの out は物理的に「(外に) 出て、出して」という意味で「外への移動」を表している。

同様に up も、図6のコンコーダンスの通り、2例目に見られる相手の発話中の up (no shut up) 以外全て、同じ話者による産出である。

図6 共起語 up のコンコーダンス

1	SBFN 502	under the floorboards so I ripped a couple of floorboards up and	there was this	big void S0309: mm S0308: one and a half metres deep S0309: you found it
2	SC67 627	--ANONnameM and she was like S0624: >>no shut up S0627: she was like ah	there was this	family that came over I think it was from Ireland S0627: I think
3	SC67 641	they did n't pick up but the kids picked it up and	there was this	kind of like strange so poor relationship and you have to understand
4	SV5A 1655	because m- mo- normally all the popular kids all pack up S0417: mm S0416:	there was this	other popular group (.) just cos they're just like (.) they are pop-
5	SWPV 1713	a little bit unsure S0251: >>squidgy mm S0369: and you looked up there and	there was this	biggest like half a field and the water 's bubbling up out
6	SXDQ 982	air (.) and it was black everywhere (.) and see I looked up (.) and	there was this	parachute come there with this great ob- object S0251: >>oh god S0369: and (.) I
7	SKNE 721	the next minute she said here we are and looked up and	there was this	car with all sorts of colours so I do n't did n't

3例が looked up、1例が picked up で「～上げる」の意味であり、他の2例(ripped ... up,

pack up) は「～し尽くす、～仕上げる」の意味で使われている。共起語 went, out, up の「外向き・上向き」の視点の動きや「移動・終了」のイメージが、次に導入される this NP の指示対象へ注意を引く役目を果たしており、聞き手の関心をかき立てていると言える。

4.4 --ANONplace, in, there

表 1 では、非特定化されて --ANONplace と表記されている場所名が上位に位置している (MI スコア 8 位、T スコア 9 位)。there was this が導入する新情報が存在する場所を示していると思われる。この場所名との共起形コンコーダンスを図 7 に示す。

図 7 共起語 --ANONplace のコンコーダンス

1	STAR 191	of it S0443: >>well that 's right when I was in the --ANONplace	there was this	really really quite lady called --ANONnameF she was really nice but painfully
2	S7VD 431	of (.) chiwying people along beneath them S0510: yeah S0509: like I remember on --ANONplace	there was this	one guy and I really tried to make him be a leader
3	SDJA 1355	S0328: we were really --UNCLEARWORD like down by the be- like --ANONplace and	there was this	weird falcon dude what what were we talking about ? S0326: >>yes you
4	SEVC 415	to be in the bowels of the earth at --ANONplace university and	there was this	sort of little man who was like a little mole and he
5	SHGE 1115	he ? S0538: >>yeah S0546: >>the NHS helpline S0538: and he went to --ANONplace (.) and	there was this	particular unit and there was no hardly anybody there when he went
6	SKHW 943	S0328: which one ? --ANONplace ? S0330: --ANONplace yeah we went to --ANONplace and	there was this	it was a really busy night and there was this like tradesman
7	SNXG 1569	like they sent emails out S0585: I know S0587: erm from --ANONplace saying like	there was this	thing in place so it will be done S0585: oh they 've done
8	SJ82 504	S0041: all the arts S0041: I 'll have all the arts in the --ANONplace S0041:	there was this	thing in the --ANONplace right and it really got me (.) and some
9	SVDV 774	we 're in --ANONplace now S0392: yeah (.) yeah when we were in --ANONplace	there was this	this church that was jet black with soot still from the industrial

全ての --ANONplace は中心フレーズと同じ話者による発話に現れている。went to --ANONplace や in (the) --ANONplace という表現で移動場所や存在場所が表されており、「移動場所／存在場所の設定 + 新情報の導入」という発話の連鎖パターンは 4.3 節で見た結果とも重なる。

同様に表 1 には、「～にいる、～に入り込む」の意味で、this が導入する要素が存在する場所を表すと思われる in (MI スコア 16 位、T スコア 12 位) や there (MI スコア 9 位、T スコア 4 位) も挙がっている。in の 21 共起例のコンコーダンスを調べたところ、1 例を除いて全ての in は、(10) のように中心フレーズと同じ話者による発話に含まれていた。

- (10) S0018: ... I was in the changing room and **there was this** woman standing in front of me having a conversation with someone standing in front of her (.) and she had her back to me but her arms crossed (S95D)

(10) のような this で導入する物や人があった (いた) 場所を表す in は、21 例中 15 例だった (他は、別の物や人が存在・移動する場所を表す in)。in～は there was this の節に付加された副詞句の場合もあるが、多くは前の節で使われていた。(10) のような be 動詞の節が多く見られたが、sat in や went in のような動きを表す動詞表現でも使われていた。

there も、下記の (11) のように「そこに、そこで」の意味の副詞として、in や場所名と同様に新情報導入のための場所の設定に用いられている例も確かに見られた。

(11) S0655: and I also met my friends there

S0652: mm?

S0655: and **there was this** swamp place erm where we that you could learn how to
go erm you could learn how to ride a boat like steer it (SN2C)

しかし、過去のことを話す語りで使われる *there* は前方照応表現のため、ストーリーの中で新規に場所設定を行う新情報の場所名と異なり、聞き手の注意を引き寄せる効果は薄いと推察される。実際、*there* の共起例に関しては、他の観点からの考察が必要な特徴的振る舞いが見られたため、改めて4.7節で扱う。

4.5 *and, then, when*

and と *then* は品詞は異なるが、ともに T スコアの順位は高く、MI スコアでも上位である (*and* は MI スコア 5 位、T スコア 1 位、*then* は MI スコア 7 位、T スコア 3 位)。両者とも会話ではつなぎ表現として働く高頻度の語であり、語りにおいても話を続けるために使われる。*and* との共起頻度は特に高い (135例)。(12) の例では、4.3節で見た「外への移動 + 新情報の導入」の談話パターンの接続に *and* が使われている。

(12) S0300: and the fe- weirdest thing was as I was digging the hole I hit something so I
dug out some more dirt and **there was this** blanket and I thought (S7SZ)

また聞き手からの相づちなどの反応の後に、*and there was this ...* とターンを維持しながら話を継続・展開させている例も見られた。*then* は、共起例23例のうち1例のみが聞き手による *then* で、他は全て *there was this* の話者が直前 (1L) で産出しているものだった。(13) のように *and then* というフレーズで現れているものが17例でほとんどを占めた。

(13) S0652: ... and it was all very quiet and I could hear the jungle noises from below me
and I had a lovely lovely sense of calm and then **there was this** monkey who
suddenly appeared next to me and he picked up a stick and started poking
me in the ribs with it (SN2C)

一方、*when* の共起強度順位 (MI スコア14位、T スコア18位) はそれほど高くないが、コンコーダンスを調べると、「その時～」という意味で *there was this* の節を導く、*and* や *then* と同じようなつなぎとしての使い方が見られた。図8にコンコーダンスを示す。

図8 共起語 when のコンコーダンス

1	SAQD 790	over S0154: oh that woman at the end though (.) when you walked out	there was this	woman and she had like a zip over her eye and she
2	SDHB 3112	sell it I sorted started to sell it and it was when	there was this	massive downturn S0013: right S0008: in the ba- in in house prices and er
3	SQ37 978	's the that 's the erm the the the year when	there was this	frightful weather come with me and I 'll show you something interesting
4	SVDV 774	we 're in --ANONplace now S0392: yeah (.) yeah when we were in --ANONplace	there was this	this church that was jet black with soot still from the industrial
5	SXCB 666	S0328: yeah S0383: did you did you see that Derren Brown when he like	there was this	guy that was terrified of flying and he like it was over
6	SXDQ 990	all quiet (.) and we was in our air raid shelter there (.) when	there was this	(.) u- because it was absolutely quiet there was this almighty explosion (.) and
7	SZ94 204	--ANONnameM --ANONnameF and --ANONnameF were left S0653: mm ? S0654: and when and then	there was this	like slide which went up and down and up and down and

共起例7例のうち、1例目と4例目の when は4.2節や4.4節で示したような状況・場面設定の副詞節を導くが、その他は(14)のように there was this を導いている。

- (14) S0008: in --ANONplace (...) when I sort of tried to sell it I sorted started to sell it and it was when there was this massive downturn
 S0013: right
 S0008: in the ba- in in house prices and er (.) I I wanted a hundred thousand for it and er (.) because of this downturn (SDHB)

and, then, when の共起例のコンテキストを調べると、上記例のように、語りにおける場面転換や重要場面への展開の箇所であることが多い。これらの語句との共起は、there was this による新情報導入が、語りのハイライトや重要場面・展開と密接に関わっていることを示し、聞き手の注意を引く this の機能を裏付けていると言える。

4.6 because

MIスコア11位、Tスコア16位の接続詞 because は、図9が示す共起例6例のうち、6例目を除く5例は、(15)のように there was this を導く because 節として使われていた。

図9 共起語 because のコンコーダンス

1	SBVQ 800	went through (.) oh but we decided not to because um S0018: tut fff S0049:	there was this	box ou- S0018: huh S0049: right okay (.) so why did n't you tell me
2	SF8D 1614	Photography it 's S0152: oh Practical Photography S0013: mm (.) we only got it because	there was this	good offer on a erm hard drive thing S0012: >>a hard drive yeah
3	SGMT 94	yeah S0278: you see ? and I kept looking because all that was	there was this	thing I kept looking guess what was underneath there ? S0012: your two
4	SNMA 197	persist and say well this is n't still a problem S0421: yeah because	there was this	child erm and their parents took them to six different doctors and
5	SPML 607	S0140: it took me ten years to get that S0140: (.) like only because	there was this	character called Justforkix and I did n't really get that but they
6	SXDQ 990	shelter there (.) when there was this (.) u- because it was absolutely quiet	there was this	almighty explosion (.) and (.) anyhow eventually the all-clear went (.) and (.) so (.) said come

- (15) S0152: oh Practical Photography
 S0013: mm (.) we only got it because there was this good offer on a erm hard drive thing (SF8D)

会話では because は、従属接続詞というより談話標識として、先行発話の内容に対して理由や

根拠、弁明や追加説明を表すための並列的なつなぎとして使われるのが普通である。because との共起は、there was this による新情報導入の目的が話者の主張を補強したり裏付けたりする追加説明であることを表しており、this が導入するものが談話的に重要な要素であることを示すコロケーションと言える。

4.7 like, erm, there

表1には、話し言葉のリアムタイム性を反映した言語構造である言い淀み、修復、言い直しとの関連を示す共起語 erm, like, there が含まれている。表10は、MI スコア、T スコアともに19位の共起語 erm のコンコーダンスである。

図10 共起語 erm のコンコーダンス

1	S38F 173	bones yeah S0441: ow S0439: oh god the thing is I was watching erm	there was this	Netflix series called Marco Polo and there was this little girl and
2	S79Y 158	you know family members or S0104: mm S0167: and stuff like that () erm but	there was this	man 's been brought to court been brought to court and he
3	S9GP 965	S0326: I do n't know S0327: yeah we do now S0327: I remember erm and	there was this	guide with all the camels getting onto his mobile S0327: and that did
4	SDMJ 178	of course a lot of interns S0464: yeah S0456: erm () there was ages ago	there was this	guy from Austria and I S0464: yeah S0456: I thought I do n't understand
5	SNZC 160	down S0653: mm ? S0652: --UNCLEARWORD S0654: then I went to erm S0652: mm S0654: and then	there was this	really s- cool thing S0653: mm ? S0654: it was a splash park for
6	SNXG 1569	like they sent emails out S0585: I know S0587: erm from --ANONplace saying like	there was this	thing in place so it will be done S0585: oh they 've done
7	SP2Y 14	said okay so I went onto the X Factor and erm and	there was this	woman who spoke with a very posh accent and was twenty-three year
8	SRFV 1068	confront everyone I 've got some awful --UNCLEARWORD S0253: erm and there 's	there was this	really funny bit where they were trying to sell a jumper to
9	SV5R 417	S0428: I was talking this morning erm --ANONNameM was telling us that erm	there was this	there was this thing about conversations between Japanese and American people and
10	SV5R 417	this morning erm --ANONNameM was telling us that erm there was this	there was this	thing about conversations between Japanese and American people and in Japan it

- (16) S0439: oh god the thing is I was watching erm **there was this** Netflix series called Marco Polo and there was this little girl and she was nine and it was based it's based in China or Mongolia and ... (S38F)

10例全て、話者が there was this を発する直前に起こった言い淀みである。(16) のように、発話途中で発話を打ち切って統語構造の変更を行い、新しい発話を始める時の仕切り直しに使われているものもある。(16) ではさらに、there was this Netflix series ... の後に there was this little girl ... という同一構文が現れており、話に関わる重要な人や物を思いついたまま談話に導入しているようである。there was this は話し言葉のリアルタイム性を反映した表現とも言える。

like (MI スコア17位、T スコア7位) にも同じような使い方が見られた。29の共起例の使い方を調べた表2によると、(17) に見られるような、話を続けるつなぎやフィルターとしての用法(談話標識) がほとんどである。

表2 共起語 like の用法 (29)

同じ話者による	「～のような」の意の前置詞として	1
	談話標識として	20
	'S was like'で、話法の伝達部として	4
別の話者による	——	4

- (17) S0383: did you did you see that Derren Brown when he like **there was this** guy that was terrified of flying and he like it was over a really long period of time and then ... (SXCB)

話し言葉に使われる like は通常、この用法が多いが、ターンの維持が必要な語りというジャンルの要因や、上記でも触れたような即時的に重要要素の導入を行わなければならない会話の語りの状況的制約も関わっているだろう。

there は、4.4節で見たような「そこに (で)」という意味の照応用法もあるが、23の共起例を調べると、表3の通り、それが多数派ではない。(18)のように、there was this に至る前の繰り返し、言い直し、言い淀みとして表れている場合が最多である。

表3 共起語 there の用法 (23)

同じ話者による	「そこに (で)」の意の副詞として	9
	there was this の言い直し、言い淀みとして	11
	別の there be 構文として	2
別の話者による	——	1

- (18) S0298: it was quite funny when I was standing outside having a fag there was like **there was this** group of Asian people there (SKMV)

there のこのような共起態も、there was this がリアルタイムの語りにおいて言い淀みや言い直しとともに現れやすく、話者はリアルタイム性に対応しながら、語りを効果的に展開するための新情報の導入を図っていることを表している。

4.8 mm, yeah

最後に、共起強度順位は高くはないが、ターンテイキングに関わる共起語 mm と yeah を見る (mm は MI スコア18位、T スコア14位、yeah は MI スコア22位、T スコア13位)。mm は、

15例のうち1例を除いて全て、(19)のような聞き手によるあいづちとして現れていた。

(19) S0654: it's a theme park

S0653: mm

S0654: and **there was this** like water balloon and it was really real and I was wearing a summer dress (SJ2E)

4.5節で指摘した and との共起も目立ち、物語の段階の区切りで相づちが入っているようである。there was this による新情報導入の前にターンを取る意図のない相づちが入りやすいということは、話の区切りが聞き手に認識されており、話者は聞き手の反応を意識しながら話の展開やハイライトへの移行を行っていると言える。

同じく相づちとして使われる yeah も、40の共起例のうち24例が、(20)のように、there was this の前に現れた相手の相づちである。

(20) S0302: so because you were late today I thought oh I'm gonna spend time

S0262: >>>yeah

S0302: and go and try a pair on

S0262: yeah

S0302: so I went in **there was this** lovely Indian girl in there (.) and erm ... (SA69)

一方 mm と異なるのは、yeah は、(21)のように、there was this の話者自身がその前で用いることもある点である。

(21) S0423: if you have got a persistent something that's not going away you need to make sure you persist and say well this isn't still a problem

S0421: yeah because **there was this** child erm and their parents took them to six different doctors and ... (SNMA)

このような共起例は、相手の発話を承認・同意し、その発話の根拠や具体例、追加説明となるような過去のエピソードを導入する際に there was this が使われることを示している。Rühlemann (2013) は「語りは聞き手と共同で行われる」と述べているが、このような共起語の振る舞いは、聞き手との相互作用で話の展開がなされていることを示すものである。

5. おわりに

本研究は、話し言葉で使われる新情報の不定名詞句を導く this が、どのような発話の連鎖や談話構造パターンの中で使われているのかを調査した。具体的には、Spoken BNC2014という会話コーパスを用いて、新情報導入構造 there was this NP の左側に起こるコロケーションを局所的に分析した。共起語を8タイプに分類して分析したところ、there was this の前は、話者の記憶を確認するフレーズやターン交替を一時停止するフレーズ、さらに、時や場面の設定を行う語句といった新情報導入の準備となる前置きの表現が見られた。また、直前のコロケーションに特徴的な「外向き・上向き」の視点の動きや「移動・終了」イメージの語句、語りのハイライトや重要な展開を示す接続詞やつなぎの語句は、語りにおいて重要な要素である this NP の効果的な導入準備となり、その指示対象に聞き手の注意を引きつける働きをしている。さらに there was this の直前には、会話のリズム性や双方性を表す言語特徴が現れており、聞き手との相互作用の中で語りの進行や展開がなされていることも分かった。本研究は、初出のものを導入する this の談話的機能の解明につながり、さらに、日常会話における語りの手法にも示唆を与えるものである。

謝辞 本研究は JSPS 科研費16K02907の助成を受けたものである。

注

- (1) 本稿の発話例は、特に明記のない限り、3節で述べるThe Spoken British National Corpus 2014 (Spoken BNC2014) から取っている。[S番号] は話者ID番号を、引用末の括弧はテキストID番号を示す。発話やターンの始まりは大文字ではなく、終わりもピリオドを用いていない。(.) は1～5秒の短いポーズ、(...) は5秒を超える長いポーズ、-ANONplaceは非特定化された場所名、>>はそのターンの始まりが前のターンの終わり部分とオーバーラップしていることを示す。括弧のない「...」は、ターン内の他の発話の転写を筆者が省略していることを示す。
- (2) MIスコアは、低頻度でも特徴的な語彙の結びつきに高い値が出る傾向があり、語彙的コロケーションの検出に適した指標だが、Tスコアは、高頻度の機能語の評価に強く、文法的コロケーションを測るのに適した指標と言われている。
- (3) 意味のある強さの結びつきと解釈できるのは、MIスコアは一般的に3以上、あるいは1.58以上、Tスコアは2以上、あるいは1.65以上とする説がある(齊藤・中村・赤野 2005)。

引用文献

- 安藤貞雄 (2005). 『現代英文法講義』 東京: 開拓社.
- Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., and Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education.
- Brezina, V., Love, R., and Aijmer, K. (Eds.) (2018). *Corpus Approaches to Contemporary British Speech: Sociolinguistic Studies of the Spoken BNC2014*. New York: Routledge.
- Carter, R., Rebecca, H., and McCarthy, M. (2000). *Exploring Grammar in Context: Upper-intermediate and Advanced*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Givón, T. (1995). Coherence in texts vs. coherence in mind. In M. A. Gernsbacher, and T. Givón (Eds.), *Coherence in Spontaneous Text* (pp. 59-115). Amsterdam: John Benjamins.
- Gundel, J. K., Hedberg, N., and Zacharski, R. (1993). Cognitive status and the form of referring expressions in discourse. *Language*, 69(2), 274-307.
- Halliday, M. A. K., and Hasan, R. (1976). *Cohesion in English*. London: Longman.
- Hoey, M. (2005). *Lexical Priming: A New Theory of Words and Language*. London: Routledge.
- Labov, W. (1972). *Language in the Inner City: Studies in the Black English Vernacular*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Labov, W., and Waletzky, J. (1967). Narrative analysis: Oral versions of personal experience. In J. Helm (Ed.), *Essays on the Verbal and Visual Arts (Proceedings of the 1966 Annual Spring Meeting of the American Ethnological Society)* (pp. 12-44). Seattle: University of Washington Press.
- Lakoff, R. (1974). Remarks on *this* and *that*. *Papers from the 10th Regional Meeting, Chicago Linguistics Society*, 345-56.
- Leech, G., and Svartvik, J. (1994). *A Communicative Grammar of English*. London: Longman.
- Love, R., Dembry, C., Hardie, A., Brezina, V., and McEnery, T. (2017). The Spoken BNC2014: Designing and building a spoken corpus of everyday conversations. *International Journal of Corpus Linguistics*, 22(3), 319-44.
- Love, R., Hawtin, A., and Hardie, A. (2017). *The British National Corpus 2014: User Manual and Reference Guide (Version 1.1)*. Lancaster: ESRC Centre for Corpus Approaches to Social Science.
- Prince, E. F. (1981). On the inferencing of indefinite-*this* NPs. In A. K. Joshi, B. L. Webber, and I. A. Sag (Eds.), *Elements of Discourse Understanding* (pp. 231-50). Cambridge: Cambridge University Press.
- Rühlemann, C. (2007). *Conversation in Context: A Corpus-driven Approach*. London: Continuum.
- Rühlemann, C. (2013). *Narrative in English Conversation: A Corpus Analysis of Storytelling*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Rühlemann, C. (2019). *Corpus Linguistics for Pragmatics: A Guide for Research*. London: Routledge.

- Rühlemann, C., and O'Donnell, M. B. (2015). Deixis. In K. Aijmer, and C. Rühlemann (Eds), *Corpus Pragmatics: A Handbook* (pp. 331-59). Cambridge: Cambridge University Press.
- Sacks, H. (1992). *Lectures on Conversation: Volumes I&II*. Oxford: Blackwell.
- 斉藤俊雄・中村純作・赤野一郎（編）（2005）.『英語コーパス言語学—基礎と実践』東京: 研究社.
- Smith, S. W., Noda, H. P., Andrews, S., and Jucker, A. H. (2005). Setting the stage: How speakers prepare listeners for the introduction of referents in dialogues and monologues. *Journal of Pragmatics*, 37, 1865-95.
- Strauss, S. (2002). *This, that, and it* in spoken American English: A demonstrative system of gradient focus. *Language Sciences*, 24, 131-52.
- Wald, B. (1983). Referents and topic within and across discourse units: Observations from current vernacular English. In F. Klein-Andreu (Ed.), *Discourse Perspectives on Syntax* (pp. 91-116). New York: Academic Press.

(やまさき・のぞみ 外国語学部准教授)